



“Shall We Dance?” (2017年開園際より)

愛の手を

パフテスト心身障害児(者)を守る会

第189号

発行責任者
社会福祉法人 パフテスト心身
障害児(者)を守る会
重症心身障害児施設 久山療
育園重症児者医療療育センター
理事長 山田 雄 次
編集責任者 梅 木 光 男
福岡県糟屋郡久山町大字
久原 1869
☎ (092)976-2281
FAX (092)976-2172

『久山療育園保護者会の活動』

久山療育園保護者会 会長 村津 俊博

私たちは久山療育園に入所する障害児(者)の家族の会で、97世帯の会員がいます。

催し、会員への情報提供・課題検討を行い毎回盛況で良き交流の場となっています。また、国の行政機関への要望・陳情を行い、数多くの成果を上げています。これにより障害者への福祉施策の面では、ここ10年で大きく変化し良くなりつつあると思います。

但し、私の一番の懸念材料としては障害者施設の不要論が再び持ち上がっている事です。数年前、厚労省内の審議会の委員から「障害者を施設に入れるのは人権侵害」であるとの暴論が出て『守る会』等の反対署名で収斂したと思っていた所、最近の審議会で前回の意見が出ていたと聞き愕然としました。まだ障害者への理解が無い有識者がいる事が不思議でさらに啓蒙活動を深めなければなりません。また、『守る会』活動での課題もあります。会員の減少と会員の高齢化による活動停滞への懸念です。

国の行政機関との折衝の際組織の大きさによる影響を考えれば当然の事です。この為『守る会』では3ヶ年計画で会員拡大を推進しています。一般の方は賛助会員として入会できますので、これを機会に入会頂ければ幸いです。

また、高齢化は避けがたい事です。子供達のためにも健康に留意し長生きする事が我々のできる最善の方法ではないでしょうか。

最後になりますがこれからも療育園とその関係者の方々と協力し、久山療育園を盛り上げていきたいと思っておりますので、今後とも宜しくご指導をお願い致します

最初に紙面をお借りして久山療育園の運営に携わっている全ての皆様へ感謝申し上げます。入所している子供達が明るく、楽しい療養生活を過ごせているのは皆様のお世話によるものと思うからです。この事が我々の一番の願いであり、ただ感謝あるのみです。

私達の会は、会員相互の親睦ならびに久山療育園や『全国重症児(者)を守る会』(通称・『守る会』)と連携し、入所者の幸福と療育の向上を目指す活動しております。

具体的には、療育園との関係では、療育園の行事への積極的参加(誕生会・開園祭・運動会等々)園との懇談会の開催(3〜4回/年)での意見交換や相互の要望提案を行なうて私達の要望にも前向きに対応していただいています。

療育園を支援するコロン友の会への入会促進、イベント(街頭募金・コンサートチケット購入)への参加も行っております。

もう一つは『守る会』との関係です。

『守る会』は会員数約11,000名の全国組織で8つのブロック、47の都道府県支部を持つております。我々は九州・沖縄ブロック(会員1,700名)の福岡県支部(会員500名)で活動しています。

『守る会』活動では毎年全国大会(参加1,000名超)や各地区別のブロック大会を開

主 張

見えないものに目を注いで
／第四一回開園祭に於ける記念礼拝式辞より／

理事長 山田 雄次

■はじめに■

2016年3月31日に「社会福祉法等の一部改正する法律」(以下「改正法」)が成立公布され、完全施行となる2017年度に向けて、定款の改正を始めとし新しい役員会の組織他課題の取り組みを終え、2017年度に臨み半期を終えようとしています。

新しい「改正法」は社会福祉法人の存在意義やその役割の正すものとして尊重してゆかなければなりませんと同時に私たちにとつてもう一つ大切なことは久山療育園の設立の精神がしっかりと継承されてゆかなければならないということです。そのことを創立を祝う開園祭の感謝礼拝において、創立聖句コリント第2の手紙4章18節の「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである」というみことばから学び、再確認したいと思います。

■創立聖句■

さて、聖書コリント第2の手紙4章18節のことばは16節から18節迄の区切りとなっており新共同訳聖書では「信仰に生きる」という見出しになっており、見出しの通り、内容は伝道者パウロのひたむきな信仰者としての生き方を示すものと

です。18節に先立つ16節には「私たちは落胆しない」ということばが示されています。その背景にはパウロを落胆させる困難な現実があったということの意味にあります。そうした厳しい現実にあつてもパウロはキリストの復活の出来事に基づけられた信仰により「見えるものではなく見えないものに目を注いで主の業に励む」というのです。「目を注ぐ」とは目を一点に留めることであり目標をしっかりと見定めてからだを伸ばして生きることです。「見えないもの」とは「見えるもの」、「一時的なもの」に对立し、今は見えていないが信仰によって確信される救いの完成を意味しています。16節で「わたしは落胆しない」と言われているがそれは単に気落ちした時の励みという意味のものではなく、使命感をもって課題に取り組む者がどんな困難にあつても落胆しないで自分に与えられた任務を貫き、全うすることを意味しています。

伝道者としてのパウロは、八方塞がりのような厳しい状況の中にあつて今はそれを見ることは出来ないが、将来来るべき時に必ず顕わにされる救いの完成に目を注いで任務を全うする生き方に徹するといっているのです。

■創立聖句から学ばれること■

そこで「見えるものではなく見えないものに目を注ぐ」ということばから何を学ばされるかということですが、その一つは最も小さい者のひとりのいのちを守るための重症児者の医療・療育事業に使命感をもって取り組み、これを全うする教会の祈りの促しということなのです。

1969年に療育園の設立を目ざすバプテスト心身障害児を守る会(以下守る会)が生まれ、続けて施設建設を助け、その運営を支援するコロニー友の会の運動がはじまり、久山町での施設の受け入れが決り、守る会を社会福祉法人とするための発起人総会の開催が決まった1974年、日本で最初の重症児者施設で、後に続く重症児施設モデルともなっていた島田療育園でストライキが起り小林園長が「疲れた」ということばを残し(問題提起)辞任されるとい

うことが起りました。私たちにとつては「さあこれから!」という時であり、大変な衝撃を受けました。最初の試練、危機でした。どうすべきか思案し、急遽守る会と友の会の共催で二泊三日の学習キャンプを開催しました。協議を経て困難はあつても重症児者の障害の特性から重症児者の入所施設は必要不可欠であるということを確認し、使命感をもって事業の推進を行うことを決めました。

また開催する施設は収容型ではなく出入自由な開かれた施設とすることとした上で事業の推進に際しては強固な支援体制づくりとしてコロニー友の会の組織の拡充と施設訪問ボランティア活動の取り組みを強化することとし、開園迄の3年間当時の国立病院(福岡南病院)の重症児病棟と病棟に月一回訪問し、体験的な学習を重ね開園に備えました。重症児者施設で人手不足という問題が深刻化した1994年、かえって久山療育園の開設運動が盛り上がったのは「見えるものではなく見えないものに目を注ぐ」という創立聖句から促されていることであつたと今、思いおこしています。

その二つ目は隠された重症児者のいのちに目を注ぐということでした。「障害者は生きるに値しないのち」だとして昨年7月相模原市の障害者施設で19人の入所者が殺害されるという許し難い事件が起りました。「見えるところ」で人を測る時に起る間違つた極論です。大変ショッキングな出来事でしたが、はじめてのことではなく重症児者福祉の歴史の中でも信じ難い差別が行われて来ましたが、重症児者は障害が重く治療しても永久に治らないという理由で「不治永患児」「重複欠陥児」と呼ばれ児童福祉法の適用から長く除外されてきました。親の会が入所施設の開設を求めて国会に陳情した時には「国のために役に立たない者のために大切な税金は使えない」といつて一蹴されました。見えるところを人を見て誤った人間観に陥っている私たちに聖書は「見えないもの」に目を注ぐべきことを

促しています。「生きるに値しないのち」などない。人は支えつつ支えられ、支えられつつ支えあつて共に生きる存在であることを創立の聖句は教えています。

三つ目は久山療育園の設立の目的である「重症児者が社会の片隅に収容されて生きるのではなく地域の中心に位置づけられる福祉社会の実現」を信じ、そのことに目を注いでゆくこと。園の設立の目的は未だ実現に至っていないが将来来るべき時必ず実現されることを信じ、目をその一点に注いで課題に取り組んでゆくということです。

重症児者福祉は施設への収容の形から始まり通所や短期入所や訪問事業等の在宅支援にその在り方が変わり、地域における重症児者福祉の拠点としての機能が求められています。私たち久山療育園重症児者医療療育センターは創立40周年の記念事業として在宅支援の一層の強化を期し「在宅支援棟」と「重症者ホームひさやま」の二つの事業から成る在宅支援センターを開設しました。今後は更に在宅者(家庭)のニーズを聴き「在宅支援センター」を活用し在宅支援の拡充を期して設立の目的の実現を期してゆかなければなりません。

「見えないものに目を注ぐ」ということは設立の目的を単なる目的として飾り立てることではなく、重症児者と共に生きる福祉社会を必ず実現されるべきこととして信じて使命感をもって一途に課題に取り組むことを促しているのだと思っています。

制度・情勢

「第34回バ協職員研修会を振り返って」

センター長 宮崎信義

はじめに

本研修会は、日本バプテスト連盟と協働している福祉（障がい児者・児童・高齢者）事業体が、4、5年ごとに担当施設となり、「バ協職員研修会が開催されてきました。その時代のキリスト教社会福祉の要点を学び発題し啓発し合う会です。今年の8月7、8日に、久山療育園重症児者医療療育センター（「当センター」「センター」と略）が担当施設となり、第34回バプテスト社会福祉事業団体（「バ協」と略）職員研修会が開催されました。今の時代は福祉を顧みない経済成長優先の社会であり、人を顧みない福祉・医療に陥ってしまう危機を憂いつつ、福祉の後退が進んでいくのではないかと将来を危惧しています。キリスト教社会福祉の立場としては、共生社会を目指すべきであり、効率優先の社会の中で弱い人が抑圧されたり、障がい者が排除されない社会を目指すことを基盤として、主題を『これからのキリスト教社会福祉』として開催されました。

基調講演

「私とキリスト教と社会福祉教育」

はじめに、私の人生行路についてお話しします。青年時からの全身の痛みを伴う闘病から入信に至り、「勉強」や「金儲け」が全てではないと思いつく「福祉」の道へ進みました。

①キリスト教社会福祉の視点―平和・共生・多様性の尊重をめざして。他者とは、常に異質な存在であり、我とは必ず相容れない部分を持った存在です。しかし、その異質な存在、相容れない存在である他者との繋がりがなくしては、私たちは決して存在し続けることができないのです。この矛盾の止揚こそが平和・共生であり、多様性の尊重である。現在、世界は決して、平和・共生・多様性の尊重という方向には進んでいません。

②欧米では、国対国民は相互において権利と義務の関係のもとで、社会的サービスについても、双方の権利と義務をベースにして民主的に政策決定が行われます。日本においては、民主的憲法も形式的なものとなり、国Ⅱ「クニ」で、日

本国憲法第25条に「社会福祉」という言葉が使用されているが、「クニ」の精神的風土から、国民一人ひとりのニーズに対するサービスの要望も、国民の権利とはなっていない。その中でも特筆すべきこととして、「この子らを世の光に」（系賀一雄氏の残したメッセージ）、「地域の人は先生、地域は教科書である」（宮本常一・民俗学者のメッセージ）があります。

③グローバルな視点を持つてわが国の社会状況を認識しているキリスト教社会福祉法人のこれから課題として「成長社会・成熟社会」から「共生社会・成熟社会」への目指すべき方向があります。サービス利用者やその家族、あるいは地域の地の塩、世の光となる働き人

に、わたくしたちの心を差し出さなければなりません。

実践事例報告（現場から）
事例報告Ⅰ「バプテスト・ホーム」高齢者福祉の立場から私たちに出来ること

①バプテスト・ホームの理念から。設立標語聖句…「夕暮れになっても、光がある」（ゼカリヤ14章7節）。接遇標語聖句…「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」（ローマ人への手紙12章15節）。わたしたちは、イエス・キリストの愛の実現を願って高齢者福祉に取り組みます。「一、利用される方々の尊厳を守り、人権を尊重し、畏敬の念を持つて福祉サービスの向上に努めます。一、利用される方々に寄り添い、その人らしい人生の実現を求めて、共に生きることを日々目指します。一、地域と連携して高齢者とその家族の生活を支え、社会から信頼される福祉の拠点となるように努めます。」

④キリスト教社会福祉法人で働く人びとに求められる（問われる）品格―ヒューマン・サービスに携わる働き人は、「クリスチャンの専門職者となる前に人格者たれ」、とも言えます。仕事の質（単なるソーシャル・ワーカー・仕事の自己目的化）…わたしたちの仕事は、キリストへの愛のひとつの表れにすぎません。心はキリストへの愛でいっぱいになつていなければなりません。そうなければ、その愛を行動に表さずにはいられないので、当然「貧しい人の中でも最も貧しい人が、神への愛を表す道となるのです。」（マザーテレサ女史・聖者）・支援対象者の前ではいつも口もとにはほえみがあるように。治療を施すだけというのは、大きな間違いです。すべての人

②実践報告Ⅰ（1）実践報告「特養ケアの二本柱として認知症であつても自分らしく、（2）最期まで好きなものを食べる。（3）介護の取り組み・広報誌、しつらえ、看取りなど。（4）リフォーム…2016年8月～2017年3月。居室、風呂、トイレ、食堂、廊下。

③生活支援の実際―食事については、利用者も職員も「食べることをあきらめない」という意識のもと食事支援を行っています。少し手を加えると食べられなかったものが食べられるようになり、また、

調理に参加することで普段以上に召し上がって頂く事が出来ています。看取りケアについては、施設で最期を迎えたいと希望される方（家族）が増えています。施設職員は看取りケアについて学びなおし、利用者が安楽に最期まで過ごせるよう取組を行っています。入所した時から看取りケアは始まっていると言う考えのもと、ターミナル委員会の中でマニュアル作りや職員・家族向けのパンフレット作成などを行っています。

実践事例報告Ⅱ、障害者福祉の立場「キリスト者奉仕会」

生活困窮者支援法施行、2025年問題への対応など、社会福祉法人を取り巻く状況…法人のあり方が問われている。①大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会の設立―23法人が参加し、活用に必要な「人材」「資材」「資金」「情報」の共有を可能にする。協議会の主な事業は、役員研修、福祉の職場説明会、福祉避難所協定締結等。③生活困窮者の就労支援―生活困窮者レスキュー事業の主な活動紹介…地域のセーフティネットの役割（食・従（就労））。③今後の課題として、（1）ルールや仕組み作りを検討する。（2）各法人の受け入れに対する理解。（3）伴走型支援の人材育成があります。

実践事例報告Ⅲ、障害児者福祉の立場「久山療育園」

Ⅲ 1.「入所療育の現状」児童2名を受け入れて」

担当施設として

近年に当センターが担当した研修会は、2008年第25回で基調講演は京都保育福祉学院院長の岡山幸太郎牧師、2013年は第30

①事例1…極低出生体重児に起因する超重症心身障害児の受け入れと対応。A病院NICUで集中治療。人工呼吸器使用ではあるが、生後3カ月頃より全身状態は安定。刺激に対する体動や反応あり、時折開眼する程度。受け入れてから約3ヶ月の成長過程…ベッドのみの生活から入所後、座位保持装置を使用し屋外に散歩できるようになった。新生児用の沐浴槽から大きな機械浴を利用してゆったりと入浴できるようになった。呼吸不全への対応…人工呼吸を実施しながら、うつ伏せ姿勢での呼吸訓練・手や指を自分で動かす訓練をしており、手指が少し動くようになった。療育的関わり…職員やボランティアによる本読みやスキップなど様々な関わりを持っている。今後の課題…行事への参加、24時間医療的ケアを行いながら成長発達を促した生活の質(QOL)の向上を図っていく。

②事例2…NICUから自宅に移行したが介護困難による児童入所(5歳)―在胎24週・6828gで出生。K病院NICU入院。3カ月で在宅生活に戻る。運動麻痺が強いが、寝返りは可。状況を踏まえた言語理解があり、「はい・いいえ」は発語や舌の動きで表現出来る。骨の発達は2歳程度。日中はデイルームでの療育的関わり(大型遊具を使用し、全身を大きく動かせる遊び)や様々な利用者との関わりを楽しんでいる。リハビリテーション…電動車椅子や歩行補助具を使用、身体機能維持・増進、変形拘縮予防のリハビリ訓練を行っている。同年齢の子供たちとの関わり、本人の成長を共に見守っている。ための家族支援、就学に向けての生活のリズム作り。

③講評として―(1)医療度や発達度が異なる幼児2名を受け入れ、個別のニーズと到達目標を意識した個別支援計画を立てている。その統一した各人の計画に従って多職種協働が進められている様子を具体的に表現できた。(2)成人と異なり、成育のスピードが速いことが予測され、以上の個別支援計画が継続的な評価と修正を可能にすることが期待されます。

実践事例報告Ⅲ 障害児者福祉の立場【久山療育園】

Ⅲ 2.「新規購入備品の療育活動での活用」在宅支援実践報告

①はじめに…久山療育園通所(生活介護・児童発達支援・放課後等デイサービス)は、在宅の重症心身障害児・者の方々が、月々金、一日定員26名で利用されている。利用される方の障害支援区分は、ほとんどが区分6(最重度)、言葉でのコミュニケーションは困難。人工呼吸器を使っておられる方もいらっしゃる。通所では、保育士を中心に、日中活動(療育活動)に力を入れて取り組んでいる。

②療育活動での活用…ハンモックは、もともと船上で寝具として使用されていた。現在では、リラクゼーションで用いられる。様々な素材があり、涼しい。バブルチューブ…「ウォーターランプ」ともい

れる。間接照明として用いられることもある。「バブルチューブ」とは、泡の出る、光る大きなチューブのこと。ポコポコという音が、胎児の聴く羊水の音に似ている。リラクゼーションと安心感をもたらす。

③考察…利用者によっては怖がることもあったが、それぞれに段階付けを行い、慣れるプロセスを入れることで楽しめるようになった。ひとつの道具だけで完結させるのではなく、いくつかの道具を組み合わせて、空間全体を使ってダイナミックに使用することで、楽しみ方の幅が広がった。道具の使い方と利用者の反応を記録に残すことで、療育活動の目的やねらいを明確にすることができた。

④講評として―(1)発題のポイントが明確でした。(2)「療育」のイノベーション…スヌーズレンや音楽療法・感覚統合の活用と応用。(3)考察から発展…光のグラデーションの具合や利用者の姿勢など。

おわりに

研修会から得られたことは、ぶれないで続けていくことの大切さを学び、自分がかかわる前の1990年に開始された通園モデル事業(全国で80施設中の5施設)に参加した勇氣に敬服しています。全国で手を挙げた5施設のうちの一つが当センターでした。年間一千万円以上の赤字を抱えながら続けてきましたが、そのことがあったことで在宅の人たちと繋がれています。2016年7月26日で津

久井やまゆり園の事件から1年が経ちますが、当センターでは命の尊厳をテーマに研修を行い続けています。そこで職員に「重症児(者)と共に」という創立理念を伝えていくことが重要です。人との繋がりが、地域との連携が一人一人の生命の尊厳や基本的人権が守られます。そこから地域の理解につながり、ノーマリゼーションが実現して行きます。かつて新聞で意見広告を行ったり、「生きるに値しない生命と言わせない世の中に」といった集会を行ったことなど、弱い立場の人たちのすぐそばにいて自分たちが声を上げていくことが必要です。



当園職員による実践報告

「第一回運営協議会から」

「制度の変遷と将来計画」

センター長 宮崎 信義

はじめに

2016年度に社会福祉法が一部改定され、社会福祉法人の公益性や社会貢献・会計の透明性が問われています。久山療育園でも法人定款の変更を実施し、これまでの創立理念に基づき、法制度との整合性をはかるべく理事会執行機関と評議員会(決議機関)を改組し運営の明確化、評議員の選任解任委員会の設置、外部監査人との契約を実施致しました。公益性や社会貢献は41年前の創立理念に謳われていますが、「重症心身障害児(者)と共に」という中心理念は、重症児(者)やご家族の必要に合致したものであることが大切ですので、求められているニーズ(必要性)を絶えず知って行かなければなりません。

社会に開かれた施設、地域にとってなくてはならない施設であるために、昨年までは保護者やコロニー友の会、諸教会、地域の支援者からなる「全国支援者会議」を開催して参りましたが、今年度からは、制度改革に伴って「運営協議会」に改組し、施設の在り方を提言し協議する機関と致しました。10月20日に「40年の歴史を覚えつつ新たな出発」というテーマで開催しましたが、その中の発題・提言・協議

されたことを「愛の手を」で読者の皆様に広くお知らせ致します。

久山療育園とキリスト教社会福祉

最初に山田雄次理事長から「久山療育園とキリスト教社会福祉」――重症児者医療療育センターの働き強化を目ざして――について提言がなされました。

その骨子は、①独自の基盤の上に立てられた重症児者施設であることの確認として、教会の働きとしてキリスト教主義によって立てられた重症児者施設であること、福音の隣人性の課題。②コロニー友の会の支援に支えられた重症児者施設であること…コロニー友の会の性格と目的「コロニー友の会は『重症児者と共に生きる社会』をつくり出すための運動体であり、その運動を具体化して推進するため重症児者施設久山療育園の建設を助け、その運営について物心両面からの支援活動を行う」にあります。

「40年の歩み」を振り返り、①キリスト教主義の重症児者施設として50人規模の入所施設としてスタート(1976年)、②創立理念に立ち事業の拡充(在宅支援)と規模の拡大(短期入所6床と重症者ホームの10名を加え全体で104床)を行った。③全面改築工事

(2008年)の完成を機に名称を久山療育園重症児者医療療育センターに改称。④重症児者と共に生きる福祉社会づくりの拠点として、相当のスキルを備えた重症児者医療療育センターとして成長してきたこと。

ポスト40年の歩みに向けて考えるべきこととして、①キリスト教主義(聖書)に基づく創立の精神と理念を深化、継承させていくこと。②久山療育園重症児者医療療育センターが、新しい福祉共同体づくりの拠点として次に取り組むべき課題と方向性について。③久山療育園の重症児者運動の更なる展開のための新しい体制づくりについて…これ迄の友の会との連携に在宅支援事業が反映出来る保護者を加えた三者の連携、久山療育園の重症児者運動を社会化してゆぐための「ボランティア群」づくり、等に言及されました。

久山療育園の将来ビジョン

私がセンター長として発題した内容は以下の通りです。先ず第一に、創立41周年後の将来にむけて、以下のビジョンを発題致しました。①重症心身障害児(者)の必要に応える重症心身障害施設であること。②「在宅支援プロジェクト」。③地域にとつてなくてはならない重症心身障害施設であるために。④センターの向くべき方向性として…在宅支援センターを活用した地域福祉・在宅支援への広がりや深化、入所及び通所の保護者会とコロニー友の会との協働。⑤社会福祉法一部改正と事業の整合性…施設

運営のガバナンス(統治性)の確立・強化と地域連携。そのために重症心身障害児(者)支援活動は、ライン(組織構成)とスタッフ(委員会組織など横の連携)における園内の事業の分担協力を更に円滑にしていきたいと思っています。

第二には、「久山療育園重症児者医療療育センターの医療療育指針(2017年)」から以下の医療療育方針を確認しています。①重症児者医療の基本姿勢…重症心身障害児(者)の理解の上に立つ医療療育。②「療育病院」として「療育」の保持と継続。③通所事業…多機能型通所事業として。④短期入所事業特に小児の短期入所希望に対する応答。⑤地域で家族と共に生活できる地域整備こそ障害者権利条約」に合致すること。しかし、社会や制度の受皿が整備されていない段階での「施設不要論」や「脱施設化」の主張は障害児者の生存権を侵害するものです。⑥在宅支援三本柱の必要性(1)重症心身障害児(者)通園事業、(2)短期入所事業、(3)相談支援事業、訪問事業。⑦重症心身障害児の療育(リハビリ・発達支援の必要…児童発達支援事業(宇宙ぞら)の取り組みの中から、重症心身障害児の療育(リハビリ・発達支援)の必要が明らかになつていきます。

「運営協議会」委員からの提言と協議

提言1・「在宅保護者の思い」

井上清美(保護者・評議員)

「今、これから久山療育園に」①思うこととして、「親は子どもが元気で毎日健やかに過ごすことを願っています。夫婦や家族の真ん中に障がいのある娘がいることで安定しています。それが可能になる在宅支援に感謝しています」と述べられ、②期待することとして、「久山療育園では入所・通所に加えてグループホームが作られました。子どもを見放すようで、入所にはなかなか踏み切れない家族もいます。家庭的要素があるグループホームなら、いくらか気持ち楽になります。」③希望することとして、「グループホームは、日中は生活介護で活動し、夜はホームで生活します。久山療育園には、本当に困ったときに助けていただきたい。複数の医療・福祉施設を利用していますが、久山療育園にいる時が安心です。」

また、通園利用者の母として、①思うこと…娘は新生児仮死で生まれやがて脳性まひと診断されました。医療的ケアで支えられ32歳の今日まで生きられました。外出や旅行も大好きです。これからも在宅で頑張りたい。胃瘻造設や救急蘇生の意思を尋ねられますが、重い課題です。②期待すること…若い親たちも、在宅支援の進展で働きに出るようになっていきます。また社会資源に対する注文も増えています。ガイドヘルパーや療の吸引など。介護の範囲が広がっていますので、指導してほしいと思っております。安心して頼めないうえに、無理をしても自分でやって

しまいます。

③希望すること…在宅支援の需要はこれからも多くなると思います。しかし、自分でわが子を抱っこできなくなったらお願いするしかありません。入所に抵抗があっても日中活動が充実しているグループホームなら受け入れやすいと思います。延命のために生きているのは、家族としてもつらいと思います。提言Ⅱ・地域で暮らし続けるためには」

水野英尚 委員

(小さなたね施設長)

Ⅰ. 障がいのある人たちの暮らしの基盤はどうなっているのかと問い、①経済的状況として、1級の障害基礎年金は、月額7万8千円(年額約84万9千円)であり、98.9%が貧困層に位置づけられる。②ライフステージにおけるかわりとして、幼少期・青年期は保護者との関わりが主であるが、成年期では親の介護が限界となる。日中に様々な社会資源を利用しても21:00～9:00の時間帯では老障介護となり課題が残る。

「限界が来れば重症心身障害施設 久山療育園重症児者医療療育センター入所かグループホーム入居を考えるが、親は「安心して託す場所がない」「この子を残して死ねない」という思いがある。」③住まい方の選択肢について、『どこで暮らしのか』『場の問題』『どのように暮らすのか』『質の問題』。選択肢は限られる。在宅グループホーム(施設入所)。

Ⅱ. 新しい流れの中で(障害者権利条約)・他の者との平等。※「障害者権利条約」…日本は2014年1月に批准。①固有の尊厳、個人の自律(自ら選択する自由を含む)及び個人の自立の尊重(3条)。

②全ての障害者は、他の者との平等を基礎として、その心身がそのままの状態尊重される権利を有する(17条)。

③選択する自由(19条)。

Ⅲ. 地域で暮らし続けるためには、①個人としての尊重…自己決定を考える。(2017年3月に厚労省が「意思決定支援ガイドライン」を策定した)②住まいの選択肢を広げる…「意思決定支援」は暮らしの中で「当事者意識」。

③地域力が高まること。④「祈り」を合わせ重ねることの大切さ…本人の祈り、親の祈り、支援者の祈りであること。提言Ⅲ・久山療育園のこれから働きを考える」

社会福祉充実残額の方角性についてもう1つの視点

志満秀武理事

1. 福祉充実残額は何のために用いるか…その優先順位を明確にしそのための資金の有効活用を行う…無理に行う必要のないものについては支出しない…重症児者のニーズに応じる医療・療育の充実・拡大のために、2. 上記に伴う具体的取り組みとして、A. 重症児者のニーズにこたえるために、増床については緊急性はなくなったといえる。そのため「在宅重症児者への支援の働きを強化、拡大していく」必要性。久山の医師の陣容が充実してきたので、NICU等、より重症の児者の受け入れ。

B. 人材(人材)の確保とレベルアップ等、より重症の児者の受け入れ。B. 人材(人材)の確保とレベルアップ等、より重症の児者の受け入れ。

プ・処遇改善のために、看護職・介護職・福祉職の人材の確実な雇用のために大学・専門学校・高校との業務提携や他の病院との職員交流、奨学金制度など。

C. ボランティアの拡大として、「福祉社会の拠点を指す」このことの具体的働きはボランティア社会の構築ともいえる。D. ハード面の充実・基本財産取得のために、施設規模が拡大し設備機器の専門的管理機能が求められているので専門家による知見が必要である。

質疑と全体討議

(司会者)井上さんが「本当に困ったときに助けてほしい」と発題されました。また水野さんは「本人・親・支援者の祈りの重なり合いが大切」と言われ、志満さんは「重症児者のニーズに対してどう実践していくかが重要」と言われました。これらの発題に対して深め合いたいと思います。特に委員の中から保護者や元保護者の方々からも意見を伺いたいと思います。

(A氏)私は「原点は何か」を聞いた。久山療育園の特色は、バプテストの事業体であり、街頭に立つて40年以上の運動を担ってきたことです。中でも川野直人氏・水野英尚さん・志満秀武さんのお子さんを支えることが原点となり、協議されてきました。またワークキャンプに参加した子どもたちから時代の働き人を育成したい(奨学金制度など)。相模原事件から、職員の育成と

施設の責任を問いたい。

(B氏)娘は20年以上、久山療育園でお世話になっていきます。西南学院大学の現職の時に、アメリカの福祉事情を視察する機会がありました。アメリカでは重症心身障害施設に相当する施設はなく、もっぱら在宅でボランティアが支援していました。このように福祉は多様であり、ボランティア活動の社会化や社会的資産の維持発展を願いたい。一人一人を大切に乳幼児期から終末期まで。

(C氏)息子は通所から、私が入院した時の短期(中期)入所を経験しました。そして私の体力が限界となり、現在はグループホームに入居しています。短期入所も入居も、相当の決心が必要でした。しかし、生活の豊かさ(QOL)を大切にして頂いたことで、グループホーム入居の決心ができました。本人の意思が大切でしたが、在宅が不可能になった時に助けられました。

(D氏)息子は約30年、久山療育園に入所していました。子ども自身の考えについて、親としての考えについて思い返します。気管切開当初は呼吸が楽になりましたが、やがて合併症がおこり、今でもこれで良かったのかと思うことがあります。

(E氏)保護者の方々の意見に共感を覚えました。息子は双胎の第一子です。出産時は北九州市の病院に緊急入院しました。母親の体力にも限界があり、二人と

も久山療育園を紹介され入院しました。次男は13年前に呼吸不全で亡くなりました。長男はもう5年近く呼吸障害で気管切開を進められ、現在は人工呼吸器を装着しています。日常生活や活動から、それがよかったのだと思っています。本人の意思は重度重複の障がいからわからないことも多いと思います。

おわりに

以上、時間がいくらあっても足りないほどの、提言や協議がなされました。第1回運営協議会は、昨年までの「全国支援者会議」、さらには久山療育園の理念・医療・教会や地域との連携を模索する小委員会の精神を受け継ぐものでした。これからも事業体としての組織的ビジョンに加えて、広く提言をいただければ幸いです。





藤田 英彦

ラマで声が聞こえた。
はげしく嘆き悲しむ声だ。
ラケルは子どもたちのことでなき、
慰めてもらおうともしない、子ども
たちがもつけないから。
(マタイによる福音書2:18)

2017年のクリスマスが近づいてきました。

新約聖書の第2章は、イエス降誕の際に博士たちが来訪した直後、イエス家族のエジプト避難、ヘロデ王によるベツレヘム周辺の2才児以下の男児無差別殺戮の記事が続きます。なんだか、第2次大戦下のナチスのユダヤ人無差別虐殺を思い出し、更にそこから昨年の相模原の障がい者施設で起きた元職員青年の殺害事件を連想させられます。また昨今の核ミサイル開発を巡っての米トランプ大統領と北朝鮮金主席の罵り合いとも言える一触即発を憂慮させるお互いの挑発発言は私たちを緊張させます。もし原爆が東京やソウルに落とされたら死傷者が二百万人に及ぶであろうと報じられています。気味の悪い緊張ですが、わが国の政治は

余りにも無能、無力に感じられ、日々遣り切れない不安の中に過ごしています。

2017年のクリスマスは、救い主イエス誕生を祝ういのちの喜びと共に、人類の罪の表徴といえる核兵器使用を巡っての恐怖(今年世界の核兵器使用禁止条約決議に対して抑止という名目で大量保有国である米国に追従して、唯一の原爆被災国である日本の安倍政権は参加していません)を身近に覚えながらのクリスマスです。

多くの教会でしばしば、クリスマスにイエス・キリストの預言書として、イザヤ書53章が読まれます。3節に「彼は多くの痛みを負い。病を知っている」

口語訳では「悲しみの人で病を知っていた」とあります。第1章でイエスを「インマヌエル(神は我々と共におられる)」という意味だ」と伝えたマタイは、第2章で、「イエスの誕生」(東方からの博士の到来)と共に「エジプト逃避」「ヘロデの幼児虐殺」を記しています。

インマヌエルのキリスト・イエスの誕生は、喜びと同時に、人間の深い悩み、人の同情や慰めも及ばない悲しみを担って神の子が誕生された出来事であるとマタイは伝えていきます。

ご協力ありがとうございました

(2017年7月1日～9月31日) 敬称略

【法人】

一般献金

日本基督教団福岡南教会婦人会、山口正夫、奈良崎洋子、安部聖子、ひかり幼稚園、豊前キリスト教会、手作品売上げ、西南学院中学校・高等学校文化祭図書部、いのちの冠福岡教会、末吉稔、小野輝子、福元久子、松岡順之介、栗田昌枝、活水同窓会北九州支部、早良キリスト教会、西南学院バプテスト教会姉妹会、平川博・成、松尾順子(学)西南学院西南学院高等学校母の会、富野バプテスト教会、下久原区長城戸敏幸、香蘭女子短期大学、(福)キリスト者奉仕会、横溝玲子、古賀成、鳥飼バプテスト教会、福田靖、福岡女学院中学校・高等学校修養会(以上679,180円)

【法人】

指定献金

嘉久明子(以上3,000,000円)

【重症者ホーム】

一般献金

井手伸昌、梅木光男、自動販売機売上献金、久山療育園献金箱、船津丸泰、井手伸昌、甲斐丈士、城戸勇也、平野幸枝、(株)アンチータ、榎谷恵、副島徳恵、(株)那の津寿建築研究所、小山和子、塚原千鶴子、中下啓志、中尾清寿、深見達弥、因敷、佐伯年子、東倉忠勝、鯨島隆之、田上洋子、矢津眞澄、松尾貴光、木下康一、木下鮮魚店、スーパード信、久山療育園保護者会、宮崎信義、東久原区長城戸敏幸、田中三千男・由美、矢山一美、村津俊博、松尾勇一、松尾国利、花原章二、岡本好枝、小副川時子、柴尾賢一、今里豪、北井桂子、中久原区長今林武美、中村晴光、安部田鈴香、福田賢輔、山本博子、俊次、山口吉昭、澤田久夫、ホームひさやま家族会、牟田逸雄、高橋香代子、川野直人、久山療育園来久の会、阿部初美、松枝秀明

開園祭来園者(以上1,651,262円)

【施設】

一般献金

室蘭バプテストキリスト教会、大坪敬子、名雪賢一、吉見末男、平京子、つくしんぼの会、森永清治(亜希)、草場正子、野田和子、大原信幸、古賀美紀、又野洋子、安部聖子、池田愛子、志満秀武・てい子、荻本明美、伴敦子、大原定行、奈良崎洋子(以上186,200円)

【施設】

献品

大谷美保(吸引器)、梶嶋節子(ボール他)、志村バプテスト教会(タオル)、大井バプテスト教会(女性会福祉グループ(エプロン)、嘉久明子(ハンカチ他)、森直美(陶器)、(株)フクエキ(カセットコンロ)、高瀬美代子(オムツ)、平井克芳(衣類)、久次芳(オムツ)、工藤克義(本)、山口正夫(雑貨)、平京子(石けん他)、福岡女学院中学校・高等学校(バザー品)、粕屋理容組合(タオル)、鳥飼バプテスト教会(バザー品)、井上米屋(石けん)、あいあいササグ(タオル)、高林一二三(手作り品)、福岡キリスト教会(バザー品)、楠元美喜子(台所用用品他)、福岡医療関連協業組合(洗剤)、田村玲子(雑貨)、奈良崎洋子(そうめん)、守田孝子(シソジュース)、福岡キリナリー製菓調理専門学校(お菓子)、鎌倉ツヤ子(米)、如水庵(焼菓子)、(株)フードケア(栄養食品)、伊那食品工業(栄養食品)、ニュートリー(栄養食品)、ホリカフーズ(栄養食品)、(株)明治(栄養食品)、ヘルシーフード(株)(栄養食品)、(株)クリニコ(栄養食品)、瑞穂キリスト教会(タオル)、久山療育園保護者・職員(開園祭)「バプテストコロニー友の会」8月分ワークキャンプ街頭募金(以上55,366円)

バプテストコロニー友の会からのお知らせ

第28回 久山療育園ワークキャンプ報告

仙台長命ヶ丘キリスト教会 金丸 真

今年も夏の恒例行事、久山療育園ワークキャンプが、「あなたも隣人になってみませんか？」というテーマのもと、8月21日(月)～23日(水)の2泊3日で行われました。28回目となる今回のキャンプには、赤ちゃんから80代までの、のべ132人(うち中高生以下は58人)の方々が参加してくださいました。昨年よりも参加者が増え、にぎやかなキャンプとなりました。

このように、ワークキャンプの参加者が増えているということは、単純に、重症児者のために何かをしたという人が増えているということですから、大変励まされ、感謝しています。そういう意味で、このワークキャンプは、久山療育園の働きを微力ながら支え、重症児者と共に生きる運動を広げる大事な機会になっていると感じます。

今年のワークキャンプは3日間、幸いにも天候に恵まれ、ワークの時間、草刈り作業もはかどり、園の周りをとてもきれいにすることができました。また、利用者の方々とのふれあいの時間や、保護者の方のお話を聞く時間は、

毎回貴重な時間で、多くのことを教わります。また、食事介助の仕方、車いすの操作の仕方、体験学習にて真剣に学びました。このような大切な学びの他にも、職員の方々が加わっての150人を超える規模のバーベキュー、温泉など、楽しいプログラムも充実しています。また、ワークキャンプTシャツも10年目となり、限定色ブラックスのTシャツが配られました。

今年もこのように大変有意義なワークキャンプとなったのも、私たちを受け入れてくださった利用者の方々、保護者の方々、また丁寧な協力してくださった職員の方々、食事準備などで協力してくださった教会の方々、参加してくださったお一人おひとりのおかげです。来年も、久山療育園の働きを支え、次世代へとつないでいく役割の一端を担わせていただくワークキャンプとなるように、祈りつつ準備をいたします。ぜひ皆さん奮ってご参加ください。



「2017年度ワークキャンプ集合写真」

年末街頭募金のお知らせ

今年も福岡市天神地区におきまして、下記日程で街頭募金を行います。皆様のご参加をお待ちしております。

12月16日(土)	13時～15時
12月22日(金)	13時～15時
12月23日(土)	13時～15時
12月24日(日)	13時～15時
12月25日(月)	13時～15時
12月26日(火)	13時～15時
12月27日(水)	13時～15時

場所 福岡市天神大丸デパート前
当日の問い合わせ・連絡先 久山療育園
092197612281

※日程につきましては雨天等により急遽変更する場合がありますのでご了承ください。

第20回久山療育園のために チャリティーコンサート2017 —愛のあいさつ—

日時：2018年2月24日(土) 14:00～15:30
場所：平尾バプテスト教会大名クロスガーデン
(福岡市中央区大名1-12-17)
出演者：河野明子(ソプラノ)、太田圭亮(ヴァイオリン)
秋田悠一郎(ピアノ)、グルッポ歌夢のコーラス
入場料：大人・高校生1000円 小・中学生500円
福岡・北九州のバプテスト教会、久山療育園、当日会場で購入できます。
*上記内容は変更される場合がありますのでご了承ください。

支援者からの声

元理事 松藤 一作



「違いは豊かさ」

以前、久山ワークキャンプに参加した小学生が書いてくれた感想文が印象に残っています。「はじめて久山療育園に来ました。最初は怖かったけど、ふれ合いの時間を通して、キャンプの三日目には友だちになることが出来ました」といった内容でした。「最初は怖かった」との表現が、その子どもの正直な気持ちを表しているように思えます。その怖れはどこから来るのでしょうか。

私たちは、とかく「違い」というものを怖れます。誰かが自分と違うことに戸惑いを覚えたり、違いのゆえに相手を理解出来ずに距離を置いたり、違うことを理由に仲間は

ずれにしたりすることさえあります。そのようにして、「違い」は、私たちの人間関係を難しくさせ、人と人とを分断させる大きな要因となっていています。あの感想文を書いた子どもは、自分とは違う身体

動きも、そうした哀れみに基づくものだったのかも知れません。けれども久山療育園は、このような人たちを哀れみの対象としてではなく、共に生きる相手として受け止めてきたのです。

今、自分たちとは異なる相手との違いが誇張されて、人々が分断される時代に入っています。敵意と不信感を煽られ、共に生きる、ということ

を難しくさせ、同一・同質であることを求められていく時代の中で、久山療育園は、こうした時代に警鐘を鳴らす運動体でもあります。いのちが軽んじられる背景には、互いの違いを認めず、排除し、相手を自分と同一・同質のものにして

拒絶するものとしてではなく、豊かさとして、また共に生きていく上での接点として、受け止められていったのではないかと思えてならないのです。

久山療育園は、違いの豊かさ、出会いの大切さ、そして共に生きることの素晴らしさを私たちに教えてくれます。今、この時代にあつてこそ、久山療育園の働きを通じて「いのちの何たるか」を、私たちは知るのである。そして、あの感想

文の最後に記された「友だちになることが出来た」という言葉に含まれる、平和の豊かさ・大切さを実感するのです。久山療育園が、いのちに寄り添い、平和を作り出し、そして聖書が証しする神の国を指し示す場所として、この世に向けて、また全ての人たちに向けて、力強いメッセージと希望を与える場所であり続けることを心から期待しています。



「平和をつくり出す
人たちは、さいわいである、
彼らは神の子と
呼ばれるであろう」
(マタイによる福音書
5章9節)



10月のトピックス

バプテスト女性連合の 来訪と総会でのアピール

10月12日、福岡で「第45回バプテスト女性連合総会」が開催され、例年のように久山療育園の働きをアピールする機会を頂きました。

今回の総会出席者は570名に登り、総会予定会場も西南学院バプテスト教会から隣接する西南学院大学チャペルへ変更されました。総会の開催前に会場ロビーで、園の紹介パネルやパンフレットを配布する事が出来、総会終了後に4名の職員がステージに登壇しそれぞれの立場から日頃の感謝を込めながら久山療育園の働きをアピールしました。

終了後は拍手と共に多くの参加者の皆様より激励して頂き、とても力付けられました。

さて、久山療育園では翌日13日(金)には同総会の参加者による見学のための来園を受けました。総会を終え帰路の福岡空港やJR博多駅への移動する途中に、75名の方々が立ち寄って下さったものです。

宮崎センター長作成の講義資料や本誌「愛の手を」、園の各種パンフレットや完成したばかりの「40周年記念誌」や「2016年度年報」を資料として、交流ホールで園の紹介ビデオを視聴いただき、その後4グ



「説明を受けながら病棟を見学」

ループに分かれてめぐみ棟、ひかり棟、通園棟を中心に稼働中の園の様子を実際に見て頂きました。巡回中は案内する職員への質問なども多種多様で、利用者の方への声掛けや握手の手を延ばされたり、以前に園を訪問された折からの変化と移り変わりに驚かれた方も多かったようでしたが、そんなやり取りの中に設立の時から布製オムツやエプロンを作り寄贈して下さった、久山療育園への温かな視線を感じます。やがて定められた時刻となり、職員皆が女性総会のメンバーお一人おひとりへ感謝しながらバスを見送りました。

(看護部長 吉本法生／
法人事務局担当課長 馬原哲治)

福岡特別支援学校訪問教育 「修学旅行に行きました」

10月18日、修学旅行で九州国立博物館に行きました。久山療育園をはじめ、ウェルバスほか皆様の御協力に支えられて、一人の欠席者も無く、めぐみ棟の浦田さん、長倉さん、鶴田さん、保護者、療育園の看護師さん、学校職員の総勢11名全員で予定通りに実施することができました。

まずはレストラン・グリーンハウスで、豪華な昼食をいただきました。普段とは異なる雰囲気を感じて笑顔になったり、看護師さんや学校職員に囲まれて微笑みながら食べたりするなど、みんなが食事を楽しみました。昼食後は、博物館内のいろいろな展示物の見学を行いました。大きな飾山笠や豊臣秀吉縁の「黄金の茶室」の前で記念写真を撮ったり、体験型展示室「あじっぱ」でアジアの国々の文化に触れたりしました。特に「あじっぱ」では、韓国やウズベキスタンなどの民族衣装を試着したり、韓国の「ジン」やタイの「ランナー」などの楽器を鳴らしたりして時間を忘れるくらい楽しみました。出発から帰園まで、とても楽しい1日を過ごすことができました。これも御協力くださった皆様のおかげと感謝しています。ありがとうございます。

福岡特別支援学校 小田隆太



通所で頑張っています

「ハッピーハロウィン」

今年のハロウィン期間中は、久山療育園の廊下の飾りが一層賑やかでした。通所でもハロウィン前の一週間、ハロウィンを楽しみました。通所活動のハロウィンは、ここ数年、「お菓子をもらってくれないとイタズラしちゃうぞ!」がテーマです。

まずは、それぞれの思い思いに変身をします。年々、カツラや仮面、帽子にマント、ステックなどの小物も充実して、あれこれ変身してみても鏡でチェック。お気に入りの仮装が出来たところで写真撮影です。それから、園内を「お菓子をもらってくれないとイタズラしちゃうぞ!」と言って、お菓子を配って回りました。お菓子を配ってありがとうと言われたり、仮装を褒めてもらったりして、ニコニコ嬉しそうな利用者さん。今年は園外に出て、近くに出来たばかりのローソンにまで足をのばしたグループもありました。

園内外の色々な方と交流ができ、触れ合いの時間を持つ事が出来ました。そんな中で、「お菓子を配る」という事を通して生まれた交流や会話に沢山の笑い声と笑顔が見られた素敵なハロウィンでした。

(通所看護師
森山由佳)



「貰ってくれないとイタズラしちゃうぞ!」

外来
療育

宇
そら
宙

「イルカになったよ!」

10月24日(火)宇宙園外活動：台風や天候が心配されましたが、雲一つない秋晴れとなり、マリンワールドに園外活動へ出掛けました。

マリンワールドは4月にリニューアルオープンし、それもまた楽しみの一つでもありました。現地に集合してくる子どもたちの表情はどことなく嬉しそうで、ワクワク感でいっぱいでした。まずは下のレストランへ足を運び、昼食タイムとしました。レストランからは上で行われているイルカショーのイルカがガラス越しで見ることができ、それはまるで大きなスクリーンに映し出される映像のようで、行き交うイルカたちをしっかりと目で追っていました。もちろんランチタイムも母子ともにおいしいひと時となり、お腹もいっぱいになりました。

ランチの後は館内散策をしました。薄暗い館内で怖がったり、緊張してしまわないかと心配していましたが、子どもたちの目は色々なお魚に夢中となり、目を丸くしていつまでも魚たちを見つめていました。ヒトデに触れたり、アザラシの餌やりを体験したり、最後にはイルカショーを観覧したり、ドキドキしながらみんなで楽しいひと時を過ごしました。

またみんなで、どこかにお出かけできると良いですね。

(通所保育士 汐田美賀)



「わあ〜! おおき〜い!」

重症者ホームひさやまより

「明太子作りに行ってきたよ」

9月6日に個別外出で山元久生さんと古賀豊さんと福岡市東区にある「博多の食と文化の博物館 HAKU HAKU」に行ってきました。天候は、いまいちでしたが2人とも出発する前からソワソワ。車に乗り込み、いざ出発! 車内では車の揺れに合わせて笑い声が聞かれました。到着すると、まずはミュージアムに行き博多の文化に触れました。山傘やめんべいのお面屋台等。色々な展示物がありました。その次は工場見学。工場の2階から明太子が作られるのを見学できました。いよいよ待ちに待った明太子作り。埃よけの帽子を被り、ビニール手袋はめて準備万端。しっかりと説明を聞き、自分好みの辛さや味を決め、調味料を調合し、体験は終了。2日間の熟成しやつと完成です。

その後イオンモール福岡に移動し、買い物や昼食を楽しみました。帰りの車中では、次は「どこに行くの?」というような表情でしたが、段々と見慣れた景色に変わり、ホームに到着すると残念そうな顔をしていました。次はどんな行事やお出掛けができるのか楽しみにしていています。

(ホーム介護福祉士 前田香)



「HAKU HAKUにて記念写真!」

めぐみ棟の活動

「敬老の集い」

9月12日に「敬老の集い」が行われました。対象の方は、ひかり棟3名、めぐみ棟3名、重症者ホーム1名の方々でした。今年度から重症者ホームの古賀さん、今年4月で60歳になられためぐみ棟の楠田さんも仲間入りです。午後から交流ホールでセンター長からのお祝いの言葉を頂き、利用者一人ひとりトロフィーを贈呈されました。トロフィーをもらう時は、名前を呼ばれ、大きな声で「はい」と返事されていた。年表を使用して、みなさんの生まれた頃の出来事や、同じ年の有名人などを紹介しました。皆さん興味深く聞かれており、周りのスタッフも「そんな事があったのかあ」とか「この有名人と同じ年なんだ」となどの声も沢山あがりました。全員で写真を撮り終え、各病棟へ行きました。めぐみ棟では、『365日のマーチ』で元気よくみなさんの前に登場しました。めぐみ棟のみなさんからは、S M A Pの『世界にひとつだけの花』の歌のプレゼントをもらい、利用者は、嬉しそうな表情をされていました。その後、ひかり棟では、花吹雪の道を通り、出迎えられました。『切手のない贈り物』の歌のプレゼントをもらいました。

今回、「敬老の集い」に参加できなかった「ファッションショー」浦



「みんなと一緒にハイポーズ！」

田さんの部屋にセンター長が来てくださりお祝いの言葉とトロフィーを贈呈してくださいました。浦田さんにも沢山の笑顔が見られていました。その後、園長先生、草場さん、楠田さん、みなさんと一緒に写真撮影をしました。みなさんとても良い表情をされていました。

60歳を迎えられたみなさん本当におめでとございます。久山療育園でこれからも、元気に楽しく過ごしていきたいと思います。

(めぐみ棟保育士 石橋瑛織)

9月23日の開園祭でリハビリと合同で「ファッションショー」を開催しました。最初は、会場に集まってくれた皆さんで花紙を用いて「感触を楽しむ」ふれあい活動をしました。交流ホールに集まっている会場の皆さんで、花紙をたくさん丸めてもらい、利用者、子ども達も楽しく花紙を丸めていました。今度は丸めた花紙を画用紙いっぱい皆さんで貼ってもらい綺麗な花束を完成させました。楽しくふれあい活動ができて良かったです。ファッションショーが始まると会場の皆さんが、ワクワクした気持ちで溢れていたように感じます。トップバッターのひかり棟、渡辺さんから始まりました。サッカー選手のユニフォーム姿が似合っており、ゴールキーパーになりました。ボールを何回も弾いていました。花原章二さん、佐伯さんは歩行器で登場しました。登場した後は、大好きなトランプポリオンを使ってみんなの前で回数を決め、ニコニコ笑顔で楽しく跳んでいました。岡本さん、津中さんも、歩行で登場しました。岡本さんはダンディーな服装で決め音楽に合わせて素敵な笑顔を見せてくれました。アラジンに登場するジャスミンの服装で登場した津中さん。アラジンと一緒に素敵な歩行姿を皆の前で披露してくれました。久山療育園で最年長の森田さんは電動車椅子で登場し、得意のバックを会場の皆さんに披露し手を振ってくれていました。今年から久山療育園に入所した西坂さんは、体操服姿で登場し訓練で頑張っている歩行器での歩行を見せてくれました。緊張していたこともありましたが、皆さんの応援で一步步と足を出していました。

二部では、立位台を使用して登場した、

安部田さん、牟田さん。安部田さんは、電車の車掌さん姿で登場し会場の皆さんの前に行く手を「オーイ」と楽しそうに振っていました。かっこいいファッションで登場した牟田さんは、皆の前で様々なボーリングを見せてくれました。姿勢で登場した羽田さんは、ピアノに手を伸ばし素敵な音が鳴っていました。古賀さん、矢津さんは歩行で登場し、素敵な男性の方と社交ダンスを披露して下さいました。最後、吉原さん、村津さんは素敵な衣装を着てクッションチェアで登場しました。吉原さんはニコニコ笑顔、村津さんもリラックスされており楽しく参加していました。

(めぐみ棟保育士 石橋瑛織)



「ファッションショーでみんな笑顔になりました」

ひかり棟の活動

「秋のバスハイクとショッピング」

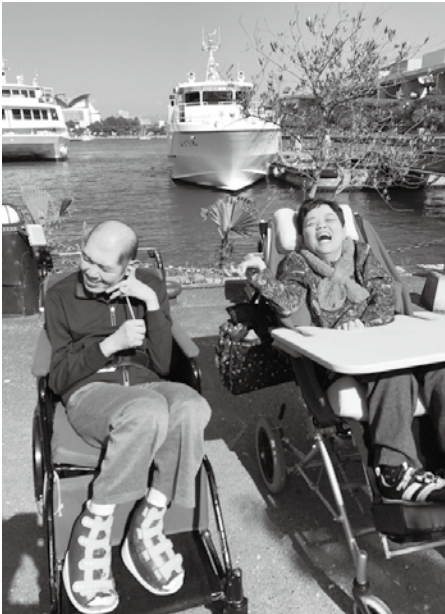
10月27日。ひかり棟の13名の利用者さんとご家族と一緒に博多埠頭へ行ってきました。大人数のため、大きなバスに乗って移動しました。バスに乗る前から多くの方がニコニコしていらっしやいました。

現地に到着すると「リタの農園」にて昼食タイム。バイキング形式のため、唐揚げやコロッケ、ケーキ、プリン等、お腹いっぱい食べました。ご家族の方やスタッフも利用者さんと一緒に食事をゆつくり楽しむ事ができ、笑顔も沢山見られました。

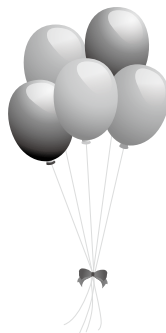
食事の後には天気も良かったので皆で博多埠頭内をお散歩♪海に浮かぶ船を見たり、室内にて大きな水槽にいる魚を眺めたり、ショッピングを楽しみました。水槽で泳いでいる様々な種類の魚を見て、癒されたのではないかと思います。ショッピングではこれから冬に近付くにつれて寒くなるの

で、温かそうなブランケットやズボンを購入し、バスに乗るまで大事に持っていました。

帰りのバスではお腹いっぱい食べて少し疲れたのか、ウトウトする姿も…。無事に園に到着すると、ニコニコしながらスタッフやご家族と会話をしている様子を、とても嬉しく感じました。また皆でお出かけ出来るというですね♪ご家族の皆様もお忙しい所、園外活動に一緒に参加して頂き、ありがとうございました。(ひかり棟介護福祉士 山口みのり)



「船を見ながらお散歩♪にこにこ笑顔!」



「ひよこぐみ スタート」

今年度、未就学児2名が入所されたことを機に、10月から週1回幼児クラスを開始しました。

場所はめぐみ棟の一室。呼吸器をつけた対象者の居室がその時だけ、幼児クラス「ひよこぐみ」になるのです。2人はおそろいのバッグを持って登園し、おたより帳にシールを貼るところから始まりです。朝のご挨拶・始まりの歌を歌い、元気に出席確認すると、主活動(ふれあい遊び)の始まりです。

10月は主にどんぐりを使用した活動を行いました。どんぐりを実際に転がしどのように動かかを見てもらいました。1回目は初めて見たどんぐりに驚き、触るのを嫌がっていましたが、5回目になると恐怖心は無くなりしつかりと手を伸ばし握ることができました。また、「どんぐりころころ」を歌い、音楽に合わせてどんぐりに触れたり、「ころころ」に合わせて手のひらサイズのボールを転がしたり。身体の上でボールを転がすと指先を動かす反応があり、身体で感じてくれている事が分かります。

その他にも「秋の果物を知ろう」をテーマに「りんご・梨・柿・ぶどう・バナナ」の5つの果物に触れました。果物もどんぐり同様に初めは驚き触るのを嫌がって

いましたが、2回目の時は恐怖心が少し軽減しており触れる果物が増えていました。

1ヶ月経ち、病棟スタッフにも徐々に「ひよこぐみ」の存在が定着しつつあり、何より2人がとても楽しみにしてくれています。お互いの存在も気になってくるよう保育以外の時間でもお友だちの名前を聞くとニコッと笑顔になります。

これからも2人にとって楽しく有意義な保育の時間を提供したいと思えます。そしてたくさんの方に触れて一緒に成長できた良いなと思っています。

(ひかり棟保育士 櫻井あや)
(めぐみ棟保育士 田崎加奈子)



「どんぐりころころ♪どんぶりこ!」

第41回開園祭表彰者

ボランティア表彰者

500 時間	川端昌子 様
500 時間	福本順子 様
2000 時間	高橋香代子 様
3000 時間	安倍妙子 様
3000 時間	村上嘉彦 様
5000 時間	伴 敦子 様

職員永年勤続表彰者

25 年	百本利雄
15 年	藤 壽美子 山野祥子 吉村優貴
10 年	馬原哲治 藤島信也 浦田秀文 大坪ゆき 長谷川博美
5 年	浅海亜美 大重佐和子 甲斐ワカ子 小林りり子 進藤江美子 土居慎太郎 長澤涼子 前田宏美 村上和美 村上里奈



勤続表彰職員の声

25年表彰を受けて

今年度の開園祭で勤続25年表彰をいただきました。長いような、短いような25年でした。利用者の方々、保護者の方、同僚スタッフや先輩、ボランティアの方々等沢山の人達に出会い、笑顔、優しさに触れることで私自身も少しずつ成長させていただき本当に感謝しています。

これからも利用者の方々の健康を守り笑顔で楽しく過ごしていけるお手伝いができ、共に歩んでいけるように頑張っていきたいと思ひます、今後ともよろしくお願ひします。

(ひかり棟 百本利雄)

15年表彰を受けて

勤続15年を迎え、私が入職した頃の事を振り返ってみました。

建て替わる前、まだ古い園舎の時です。薬局で同じような白い粉薬ばかりが棚に並んでいるのを見て、間違わずに調剤できる

10年表彰を受けて

(薬局 藤 壽美子)

勤続10年を表彰頂きありがとうございます。現在、実働11年が過ぎたところですが、短い在职期間の中で多くの業務やプロジェクトを経験する機会に恵まれました。

私達、事務職員は医師や看護師や福祉職の皆さんのように重症児者やそのご家族に直接に技術を持ってお支えする事はできません。しかし「ケアする心」は同じものが

求められており、更には園に関係するあらゆる事柄に対応する役割があるのだと思ひます。困難を感じた時には、昔から宿直業務で各棟を回らせて頂く夜に、ベッドからこつと笑ってくれる利用者さんに何よりも励まされて来ました。これからも持ち続けたい感謝の想ひです。

(法人事務局 馬原哲治)

はじめに、このような形で勤続10年を表彰して頂き、ありがとうございます。

表彰を受けた感想として、「もう10年を経つのか」と10年という期間を非常に短く感じています。この10年間、利用者様をはじめ、利用者様家族、一緒に働く職員などからたくさんのお事を教えられました。また、久山療育園からもこれまで、本当にたくさんの研修の機会を頂きました。楽しい事、悲しい事、苦しい事、色々な思いがありましたが、このような学びが私を充実させ、10年間、勤務する原動力になったと思ひます。

この場を借りて利用者様、利用者様家族、一緒に働く職員の方々に感謝を申し上げたいと思ひます。そして今後も私が充実するだけでなく、利用者様の生活が充実し豊かな日々になるように努めていきたいと思ひます。

(めぐみ棟 看護師 藤島信也)

入職して10年が経ちました。

入職した時は療育の現場に馴染めず、周りの職員の人とコミュニケーションが上手にとれず、毎日苦労していました。入立の時は色々な人に迷惑をかけていました。私が入職した時と比べて久山療育園自体変わりました。昔は古い建物でした。業務の入所者の人も10歳若く、幼い人もいました。その幼かった人が成人したり、還暦を迎えたりと思うと自分の10年は長かったのかと思ひます。

周りの方が色々変化しているのを見て自分自身は何か変わったのかよくわかりませんが、きつと変化していると思ひます。これからも変化していきたいです。

(めぐみ棟 看護師 大坪ゆき)

5年表彰を受けて

先日、第41回開園祭にて、5年表彰して頂き本当に有難うございました。

今日までの過ぎた日々を振り返りますと、自分に与えられた仕事を精一杯やり遂げる事に集中していた様に思ひます。入職して以来、久山の沢山の人の達から多くの事を教わりました。新しい出会いや別れもあり、様々な経験をさせて頂き今日の私があると感じています。

今後も人の絆を大切に頑張りますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

(めぐみ棟 看護師 長澤涼子)

久山に再就職して早くも5年が経ちました。8年前一身上の都合で退職したにも関わらず、又採用して頂いた事心から感謝しています。

特にめぐみ棟勤務は10年以上振りです、入所者の方々のメンバ―や状況もがらりと変わっていました。若いスタッフの皆さんも色々教えて頂きながらの再スタートでしたが、皆とても親切で、温かかったこと、又、何より入所者の皆さんの笑顔に毎日元気をもらいながらのあつという間の5年間だったこと、感謝でいっぱいです。これからもよろしくお願ひ致します。

(めぐみ棟 看護師 村上和美)

先日、開園祭にて5年表彰して頂き、ありがとうございます。5年間を振り返ると、たくさんの方と出会い、楽しい思い出が思い出されます。様々な経験をさせて頂き、成長できたかなと思ひます。

今後も人との出会いを大切に、これから更に大きく成長できるように、一生懸命頑張っていきたいと思います。ご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

(めぐみ棟 介護福祉士 村上里奈)

新入職員の紹介

この秋から新しい仲間を5名お迎えいたしましたので紹介いたします。



①名前・職名・部門配置
②久山療育園で働くことについての抱負
③長所・短所
④利用者の方や家族とどのように関わりたいですか？

①成尾正一(療育員 めぐみ棟)
②子どもから大人まで保育も介護もオールマイティにできるようになりたいです。
③長所：何事にも真面目に一生懸命取り組む
短所：一生懸命がゆえに時間がかかる
④心に寄り添いホッとしてもらえ、一緒にいると楽しくなる、笑顔になると言ってもらえるよう信頼関係を築いていきたいです。



①村上貴紀(介護福祉士 ひかり棟)
②仕事をすぐに憶えて即戦力として活躍したいです。
③長所：体力には自信があります。短所：人見知りするところ。
④利用者さんがご家族に安心して頂けるような接し方をしたいです。



①栗山真由美(療育員 ひかり棟)
②利用者さんや家族の方が安心していただける様に知識を身につけて一つ一つ丁寧に仕事をしていきたいと思っています。
③長所：明るく健康
短所：不器用
④利用者さんが笑顔で過ごされるよう事で家族に安心していただける様にたくさん関わりを持ちコミュニケーションが取れる様に取組んでいきたいです。



①佐伯佳子(看護師 ひかり棟)
②笑顔を忘れずに日々色々な事を学んでいきたいと思っています。
③長所：我慢強い所
短所：マイペースすぎる所
④利用者さん一人一人の個性を理解、尊重し、適切な看護ができるよう努めていきます。



①穂坂綾子(作業療法士 リハビリ課)
②一つ一つ確実に学びながら、一日でも早く利用者さんのお役に立てるようになりたいです。
③長所：ポジティブ
短所：ぬけているところ
④利用者さんの身体を通してコミュニケーションを図り、共に楽しみや喜びを見つけ出していただけるよう取組んでいきます。

メモ帳

【7月】

▽1日、中久原祇園祭り▽2日神興来園▽4日、ふれあい看護(須恵高校・古賀寛成館高等学校6名)▽7日、七夕行事▽7日、第5期生認定看護師開講式8日▽9日、認定看護師研修会、ボランティア講習会▽9日、東久原小学5・6年生との交流会(グループホーム)▽11日、第1回経営会議▽13日▽14日、恵の聖母の家庭員研修(6名)▽15日、こひつじの園ランチカフェ参加(グループホーム)▽18日、西南学院中学校・高等学校見学(35名)、スマイリング・ホスピタル・ジャパン「フラダンス」、相談支援事業所の集い▽20日、福岡特別支援学校 終業式▽21日、誕生会▽23日、施設見学会(50名)、東久原祭りみこし来園▽24日、夜間避難通報訓練▽25日全職員研修(救急蘇生法)▽28日、サビース管理責任者支援ネットワーク会議(他施設10名)▽31日▽8月2日、県立学校等初任者研修に係る体験活動研修

【8月】

▽1日、福岡特別支援学校出校日▽4日、親交会主催夏季行事▽7日▽8日、バプテスト福祉協議会研修会▽9日、福岡女学院中学校・高等学校 夏季修養会(23名)大学医局訪問▽11日▽15日、家庭療育期間▽11日、そうめん流し(グループホーム)、東久原盆踊り参加▽15日、音楽会(スマイリング・ホスピタル・ジャパン)▽18日、福岡特別支援学校出校日▽19日、こひつじの園ランチカフェ参加(グループホーム)▽21日▽23日、コロナー友の会主催ワークショップ(132名)▽22日、福岡特

別支援学校出校日、療養介護事業所ひなた家 見学(2名)▽24日、通所避難訓練・消火訓練▽25日、誕生会▽29日、第4回理事会▽30日 音楽会(ゴスペル)福岡Jゴスペルクラブ

【9月】

▽1日、誕生会、福岡特別支援学校始業式▽4日、医官実習(2名)▽5日、ぴあスマイルGH見学(2名)▽7日、産業医実習(6名)▽9日、開園祭前保護者作業日▽11日、西南学院中学保護者会ボランティア来園(17名)、久山町長訪問、諫早療育センター職員来園(3名)▽12日、敬老の集い▽14日、西南学院教会女性会ボランティア来園(9名)、コロナー友の会運営協議会▽15日、舞鶴幼稚園保護者会ボランティア来園(27名)▽15日▽17日、認定看護師研修、4期生研究発表会、4期生開講式▽16日、こひつじの園ランチカフェ参加(グループホーム)▽19日、余暇活動「音楽とフラ」(スマイリング・ホスピタル・ジャパン)▽23日、第41回開園祭▽28日ひかり棟避難消火訓練

職員の異動

(2017/8/1〜2017/10/31)

【採用】

▽穂坂綾子(作業療法士) 8/1付
▽村上貴紀(介護福祉士) 9/1付
▽國崎隆子(食事介助員) 9/1付
▽成尾正一(療育員) 9/11付
▽栗山真由美(療育員) 9/11付
【退職】
▽松崎義和(医師) 10/31付

ボランティアだより

ボランティア紹介

平川ヨシ子さん



平川 ヨシ子さん

やかなのがいい、と話されます。天神から送迎バスに乗られる時も同様で、ちよつとした小旅行のような気分です。

他にも、歌、麻雀、映画や音楽の鑑賞、旅行、ウォーキング、などなど色々な趣味をお持ちの平川さんでとてもアクティブに毎日を楽しくいらつしゃいます。今後も久山療育園のボランティアは続けようと思われています。何と言っても「ここに來たら楽しい」ということ。重症児者の方たちに関しても、「この方たちと会うとなぜか心が和む。生きるための栄養をもらっている感じがする」と話されます。ボランティア活動は「がまえることなく自然体で来られればいい」と思えるようになった、無理なく気負わず楽しみたい」と抱負も語られます。

職員についても「みていて偉いな、と思う。大変さもあると思うが、（平川さんが）ボランティアとして感じている楽しさや喜びを職員の皆さんも感じているのだからと思える」と話してくださいました。

伺っている間、終始笑顔で快活にお話しされていた平川さんでした。あちこちでの楽しいお話を今後をもって来てくださり、園の皆さんに聞かせて下さい。

（相談支援員 山田建）

久山療育園
クリスマスのご案内

○入所クリスマス

12月12日(火)

10:30より

メッセーじ 山田 雄次理事長

「この喜びの出来事、クリスマス」

○久山療育園クリスマス

12月14日(木)

13:30～14:30

メッセーじ 川野直人名誉理事長

（和臼バプテスト教会協力牧師）

「光は闇の中で輝いている」

*礼拝後、祝会開催

○通所クリスマス

12月15日(金)

10:30

メッセーじ 山田 雄次理事長

「この喜びの出来事、クリスマス」



「昨年のクリスマスの様子」

歩行器



早いもので2017年もあとわずかになりました。世界情勢も激動の時代となり特に米國至上主義を掲げたトランプ大統領の誕生によって、保護主義的な風潮が世界中に蔓延しつつあります。これは世代間格差、雇用の不安定化、人間関係などの要因が背後に複雑に絡んでおり、中間層や貧困層の人々に不安と期待が混在化したいわば「従来とは違うニューヒーローの出現」を待ち望む社会現象の一面かも知れません。日本においても、同様な傾向が見られ今後「カオス状態」が一層深まってくるのではないかと危惧されます。

久山療育園重症児者医療療育センターでも、社会福祉法の改正や来年度の診療報酬等の改定対応など大きな変革の時代を迎えています。こうした時には一度「原点」に立ち戻って考える必要があります。某知事の好きな「リセット」です。過去の成功体験や思考を一度離れて、「白紙」の状態から考えてみると案外新しい発見や視点がみつかることがあります。

時代や社会情勢の変化に応じて、組織や業務運営を見直さなければなりません。新しい組織・業務運営はまさに「変革の結果」そのものです。しかしそれは「自分ファースト」ではなく「利用者ファースト」でなければなりません。

（もつとも精神的には神様ファーストかもしれません）

しかし利用者の皆さんの声はか弱く注意しなければ聞くことが困難です。しばしば世の中の騒音や雑音などにかき消されることがあります。クリスマスを迎え私たちがキリストの光を掲げつつ、今年を総括しつつ新たな期待と希望をもって2018年を迎える準備を進めていきたいと願っています。

（M・U）